

白神の絆

林野庁
東北森林管理局
津軽白神森林生態系
保全センター

平成 29 年 8 月 16 日

No.134

第 1 回自然再生活動は雨のため次回に持ち越しとなりました

7月22日（土）、当センターの自然再生活動を西目屋村暗門の鬼川辺国有林内で実施予定でしたが、当日の朝は雷雨となったため、当初予定していた自然再生活動は取りやめ、森林散策やダム見学を行いました。自然再生活動は白神山地世界遺産地域周辺のスギ人工林を、元々の植生であるブナ等広葉樹林に戻していくため、広葉樹苗木の採取や植付けなどを実施するもので、再度9月16日に予定していますので、活動は次回に持ち越しとなります。

この日は最初に、西目屋村にある白神山地ビジターセンターを訪れ、展示ホールを見学して白神山地の生態系を学習しました。その後、水の日関連行事の一環として、今年オープンした津軽ダムパークを見学し、洪水対策やかんがい用水など下流域へ対する津軽ダムの機能を学ぶとともに、国有林の水源かん養機能など上流域の保全に関しては当センターから説明を行ったところです。

午後から天候が回復したので、弘前大学白神自然観察園の見学をさせていただきました。立派なスギやカラマツ、ミズナラやブナ等の二次林といった様々な林相の散策となりました。また、観察園の内外には不識塔や広泰寺という地域の歴史も垣間見れる場所もあり、西目屋村開拓の勉強にもなったようです。



弘前大学白神自然観察園内にて

今回は悪天候のため、メニュー変更の内容となりましたが、今後も地道に自然再生活動を続けていきます。皆様のご参加をお待ちしています。（吉川）

※第 2 回森林教室の開催場所の変更について

当初、釣瓶落峠を予定しておりましたが、釣瓶落峠へ通じる県道 317 号線が、全面通行止めのため、「津軽峠」と鱒ヶ沢町にある「奥赤石ブナ林木遺伝資源保存林」に変更となりました。詳細につきましては次号の「白神の絆」でお知らせします。なお、募集開始は 9月14日（木） を予定しております。

ーハクビシン勢力拡大中ー

4月からセンサーカメラの設置作業を進め、現在は黙々とデータ回収・確認作業を行っていますが、年々撮影枚数が増加しているのが外来種のハクビシンです。私が当センターに着任した平成27年の調査では、大間越の入良川沿いで1頭撮影されたのみでしたが、去年は20箇所仕掛けたカメラのうち11箇所合計60頭写り、今年7月末時点で既に30箇所中9箇所合計38頭が撮影されています。



ハクビシン(弘前市 弥生 2016.9.25撮影)

ハクビシンは漢字で書けば“白鼻芯”で、その名の通り額から鼻にかけて一本の芯のような白線が目立ち、先端が黒くて長い尻尾が外見上の特徴です。木登りが得意で鳥類やその卵を食べる他に、昆虫類や果実、野菜類まで様々なものを食べる雑食性です。そのため各地の果樹園や畑でブドウやサクランボ、トウモロコシやスイカ等々に被害が発生しているほか、民家の屋根裏に住み着き糞尿による悪臭等の被害も出ていて、毎年有害鳥獣捕獲が実施されています。

全国各地で被害が拡大されていくのを受けて、平成20年には農林水産省より『野生鳥獣被害防止マニュアルーハクビシンー』が発行されました。また昨年、環境省により『生態系被害防止外来種リスト』が作成され、ハクビシンは甚大な被害が予想されるため対策の必要性が高い“重点対策外来種”に指定されています。被害防止マニュアルは農水省HPから、外来種リストは環境省HPからダウンロードでき、どちらも大変分かり易くまとめられていますので、興味のある方は是非ご覧下さい。



西目屋村 湯ノ沢川カメラ設置箇所



←ここで撮影(2017.6.21撮影)

上記のマニュアルや各地の被害報告などでは、果樹園や畑など民家周辺の被害が取りあげられているため、集落近くの里山に設置したカメラに多く写るのかと思いきや、今年特に多く撮影されている箇所は西目屋村の集落から遠く離れた、周囲が山に囲われた場所でした。写真の3箇所は全て釣瓶落峠に向かう県道317号の脇で、この3地点で既に24頭撮影されています。当センターよりさらに奥山、世界遺産地域内まで調

査範囲をカバーしていただいている西目屋自然保護官事務所の哺乳類カメラ調査報告書の内容は、さらに衝撃的です。平成27年には高倉森の登山口付近で2頭のみの撮影にとどまっていたハクビシンが、昨年は32調査地点中10地点で合計16頭が撮影され、そのうちの2地点3頭はなんと世界遺産核心地域における記録です。



西目屋村 滝の沢カメラ設置箇所



←ここで撮影 (2017. 6. 21 撮影)



西目屋村 アジラ沢カメラ設置箇所



←ここで撮影 (2017. 6. 26 撮影)

あくまで私の憶測にすぎませんが・・・木登りが得意で雑食性のハクビシンは、もしかしたらテンと生活空間や餌資源が競合するかもしれません。キツネやタヌキとも食性が似通っているところがあります。今後さらに生息密度が高まれば、白神山地在来の哺乳類相に何らかの悪影響が生じる可能性も否定できません。そこで重要になってくるのが、現在継続中のセンサーカメラによるモニタリング調査で、撮影された『個体数』の記録を取り続けることです。その種がいた、いなかったという定性データではなく、その種が増えた、減ったという定量データを毎年蓄積し続けることで、その種の増加・減少傾向が把握できるようになってきます。

今後ハクビシンの増加に伴いテンやキツネが減少し、ニホンジカの増加に伴い草食性のノウサギが減少するかもしれません。最近では白神山地のニホンジカばかりが目立ちますが、今後も全ての哺乳類について個体数の増減をモニタリングし、客観的なデータに基づいた対応策を検討していきます。(有本)



滝ノ沢では今年最初のニホンジカも撮影されました (2017. 7. 19 撮影)

【第2回自然再生活動】を開催します

月 日：平成29年9月16日（土）

開催場所：青森県中津軽郡西目屋村 鬼川辺国有林内 外

募集人員：親子での参加を優先し、応募多数の場合は抽選により20名。

参加費：200円（傷害保険料外・バス代は無料です）

出発地：青森市役所柳川庁舎前（午前7時集合）

イベント内容：ブナ林再生活動としての広葉樹苗木の採取等と森林散策。

天候等により内容を変更する場合があります。

その他：雨具・昼食持参。森林内で作業が出来る服装

募集期間：8月17日（木）～9月1日（金）

※平日8時30分～17時15分まで（土日祝除く）

応募方法：電話・FAX・ハガキにてお申し込みください。

お申込み前にホームページ・チラシ等で詳細をご確認ください。

今月の一枚

専門官 有本 実



エゾナキウサギ（2016.8.15 北海道 美瑛町）

ふと“カワイイ野生動物に癒やされたい！”という衝動に駆られること、ありませんか？…とは言え白神山地でヤマネやモモンガを探してみても、そう簡単には見つからないし…そんな時はお盆休み等を利用して、新幹線が開通して近くなった北の大地を目指しましょう。北海道のカワイイ系・ナキウサギやシマリスなどは、生息地では意外と簡単に出会えます。写真の子は私のわずか数m先で、せっせと岩穴に餌を蓄えるのに大忙しでした。

〈発行〉林野庁 東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター

〒038-2754 青森県西津軽郡鯨ヶ沢町大字米町 25-2 電話:0173(72)2931 FAX:0173(72)2932

